



MDLP

MEH-P520

MD/チューナーメインユニット

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozeria

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意（別冊の「安全上のご注意」もお読みください。）



[使用方法]

運転中に操作をしない



画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

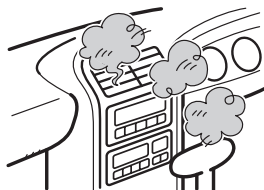
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

安全のために必ずお守りください

- 絵表示について 2
- 安全上のご注意 3

ご使用になる前に

本機の特徴	6
バッテリー上がりを防ぐために ..	6
各部の名前とボタン操作	7

すぐに使う

本機をひとつおとり操作する	10
● 電源を入れる	
● ソースを切り換える	
● 音量を調節する	
● 電源を切る	
MD を聞く	12
● MD をセットする	
● グループを選ぶ	
● 曲を選ぶ	
● 早送り／早戻しをする	
● MD を取り出す	
ラジオを聞く	14
● バンドを選ぶ	
● 放送局を選ぶ	
マルチ CD で CD を聞く	16
● CD を選ぶ	
● 曲を選ぶ	
● 早送り／早戻しをする	

MD のさまざまな機能を使う

機能を切り換える	18
再生範囲を切り換える	18
いつもと違う曲順で聞く	19
聞きたい曲やグループを探す ..	19
再生を一時停止する	20

ラジオのさまざまな機能を使う

機能を切り換える	22
複数の放送局を自動で登録する	22
放送局を 1 局ずつ登録する	23
登録した放送局を呼び出す	23
放送局の名前を変更する	24

マルチCDのさまざまな機能を使う

機能を切り換える	26
再生範囲を切り換える	27
いつもと違う曲順で聞く	27
聞きたい曲や CD を探す	28
再生を一時停止する	29
音質を調節する	29
聞きたい曲を指定する	30
指定した曲だけ再生する	31
曲の指定を解除する	32
CD のタイトルを入力する	33
タイトルを見て 聞きたい CD を探す	34

音を調節する

イコライザーカーブを選ぶ	36
イコライザーカーブに 簡単な補正を加える	36
前方定位を設定する	37
機能を切り換える	38
前後左右の 音量バランスを調節する	39
イコライザーカーブを補正する	40

安全のために必ずお守りください

ご使用になる前に

すぐに使う

MDのさまざまな機能を使う

ラジオのさまざまな機能を使う

マルチCDのさまざまな機能を使う

音を調節する

そのほかの機能を使う

初期設定を変更する

付録

イコライザーカーブを
細かく調節する …………… 41
低音・高音のレベルを調節する 42

低音・高音の不足感を補う …… 43
本機でサブウーファアの
音のつながりを調節する …… 43
外部アンプなどでサブウーファアを
調節する場合の設定をする … 45
低い音をスピーカーから
出力しない …………… 46
各ソースの音量をそろえる …… 46

そのほかの機能を使う

交通情報を受信する …………… 48
時計を表示する …………… 48
音量を瞬時に小さくする …… 49
よく使う機能を直接操作する … 49
ミュート機能 …………… 50
ふだんの再生・受信画面の表示を
変える …………… 50

初期設定を変更する

機能を切り換える …………… 52
時計を合わせる …………… 52
外部機器の音声を聞く
設定にする …………… 53
RCA 端子からの
出力方法を選ぶ …………… 54

付録

故障かな?と思ったら …………… 56
こんなメッセージが
表示されたら …………… 58
保証書とアフターサービス …… 59
おもな仕様 …………… 60
MDの正しい使いかた …………… 62
索引……………64

本機の特徴

長時間録音されたMDの再生

長時間録音されたMD (MDLP) の再生に対応しています。



MDLPとは

MDLPは、Mini Disc Long-Play modeの略です。データの圧縮率を高め、記録可能な時間を2倍または4倍に拡張する方式です。

MDグループ機能 (再生)

本機は、MDグループ機能 (再生) に対応しています。グループ名を表示したり、好みのグループだけを再生したりできます。



50枚型マルチCDプレーヤー使用時の ご注意

- 本機には、50枚型マルチCDプレーヤーを接続できます。ただし、50枚型マルチCDプレーヤーに特有の機能は操作できません。本機で操作できるのは、この取扱説明書で説明している機能だけです。
- タイトルリスト (➡34ページ) には切り換わりません。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。また、本機の電源がOFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で長時間、車のエンジンスイッチをON (またはACC) にしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

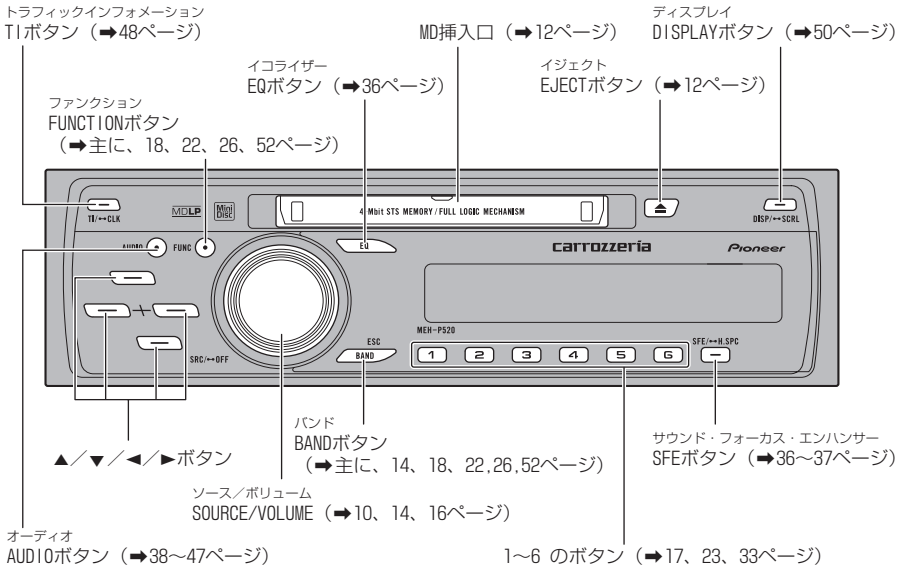


ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。初期状態に戻ると、本機の設定内容 (ラジオのプリセット/時計/オーディオ調節など) が消去されます。もう一度設定してください。
- オーディオ調節の設定内容などは、メモしておくことをお勧めします。再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

各部の名前とボタン操作

本体



ご使用になる前に

ボタン操作の基本

操作内容	使うボタン
ふだんの操作 をする	主に、SOURCE/VOLUME/ ▲/▼/◀/▶
再生のしかた を変える	機能を切り換えて選ぶ： ◎ (FUNCTION) 機能を設定する： ▲/▼/◀/▶
音を調節する	機能を切り換えて選ぶ： ◎ (AUDIO) 機能を設定する： ▲/▼/◀/▶

操作にどのボタンを使うかは、画面右側のガイドに表示されます。操作方法がわからないとき、参考にしてください。



ガイド

ガイドの表示例	意味
F	◎ (FUNCTION) で機能が切り換わる
A	◎ (AUDIO) で機能が切り換わる
▲ ◀ ▶	▲/▼/◀/▶ で設定が選べる
SEL ▼	◀/▶ で設定が選べる
SEL ▲	▲/▼ で機能が ON/OFF できる
▼OFF	



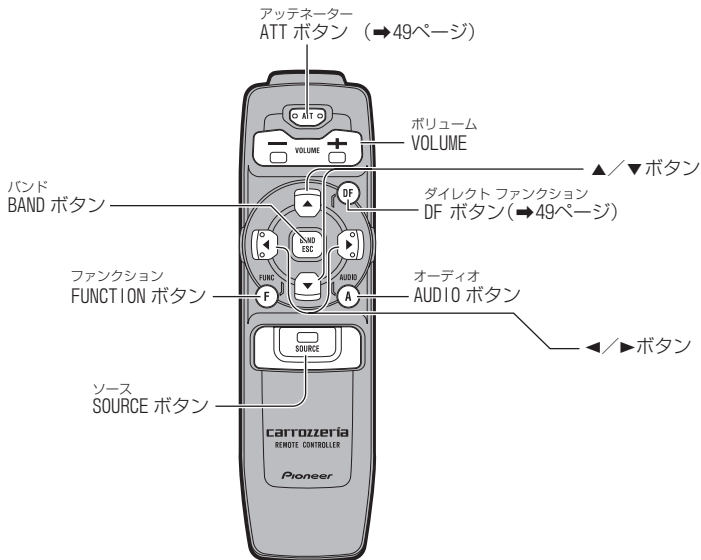
お知らせ

- このほか、EQ (→36ページ) や SFE (→36～37ページ) など専用のボタンで直接呼び出す機能もあります。

次ページに続く

別売のリモコン「CD-R660」

別売のリモコン「CD-R660」で、本機を操作できます。リモコンの取り扱いについては、リモコンの説明書をお読みください。



お知らせ

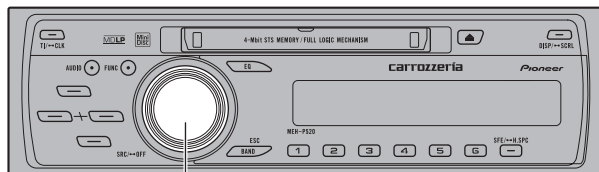
- 別売のステアリングリモートコントロールユニット「CD-SR100」でも本機を操作できます。ただし、一部の機能は操作できないことがあります。操作のしかたや取り扱いについては、「CD-SR100」の説明書をお読みください。

ご使用になる前に

本機をひとつおりの操作する

ここでは、電源を入れてから切るまでのひとつおりの操作を説明しています。使うボタンは、SOURCE/VOLUMEです。

この操作で使うボタン



ソース/ボリューム
SOURCE/VOLUME

1 SOURCE/VOLUMEを押して、電源を入れる

本機の電源がON になります。



お知らせ

- MDをMD挿入口に差し込んだときも、電源がONになります (→12ページ)。



ソースとは

内蔵MDやラジオなどの音源のことです。



エクスターナルとは

本機には、エクスターナルという特殊なソースがあります。本機がソースとして対応していない製品(将来発売されるパイオニア製品など)を接続すると、エクスターナルとして扱われます。ただしエクスターナルでは、操作できる機能が限られる場合があります。

2 SOURCE/VOLUMEを押して、ソースを切り換える

押すごとに、次の順序で切り換わります。

1枚型CD (別売) ←

↓
テレビ (別売)

↓
ラジオ (FM/AM)

↓
内蔵MD

↓
マルチCD (別売)

↓
エクスターナル (別売)

↓
AUX (外部機器) (別売) →

3

SOURCE/VOLUMEを回して、音量を調節する

大きくする : 右回し

小さくする : 左回し

調整できる範囲は0 ~ 62です。

約4秒間、音量の値が画面に表示されます。

4

SOURCE/VOLUMEを1秒以上押して、電源を切る

電源がOFFになります。

- 電源を入れる ● ソースを切り換える
- 音量を調節する ● 電源を切る



テレビ、1枚型CDを接続したときは


- 操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- ・ テレビ（例：「AVX-P7」など）や1枚型CD（例：「CDS-P555J」）の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作してください。



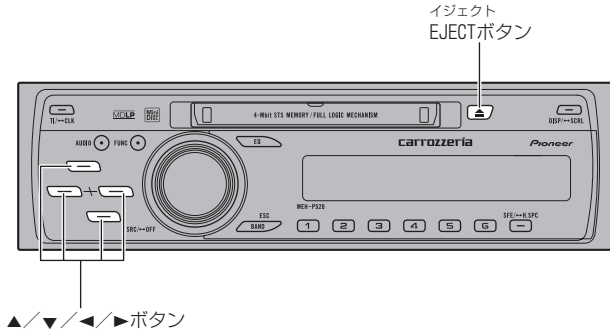
ご注意

- 接続していないソースには切り換わりません。
- MDやCDがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- 本機の青リード線（アンテナコントロール）に車側のオートアンテナのコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナが伸びます。
- 本機でエクスターナルとしてコントロールできる製品は1台だけです。
- AUXソースに切り換えるには、設定をあらかじめONにしておきます（➡53ページ）。

MDを聞く

ここだけの操作で、MDを聞くことができます。
使うボタンは、 (EJECT) / ▲ / ▼ / ◀ / ▶ です。

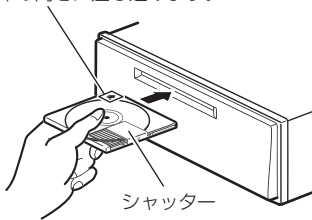
この操作で使うボタン



1 MDのラベル面を上にして、MD挿入口に差し込む

MDの再生が始まります。

矢印の向きに差し込みます。



📌 ご注意

- MDのシャッターが閉まっていることを確認してから、差し込んでください。
- MD挿入口には、MD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因になります。

📝 お知らせ

- MDを挿入すると、本機はMDから曲数などの情報を読みとります。この間、「TOC Read」と表示されます。
- MDをセットしたときやほかのソースから内蔵MDに切り換えたときなどに、ディスクタイトルや曲名が1回スクロールします。

💡 TOCとは

Table Of Contents (テーブル・オブ・コンテンツ) の略で、CDやMDなどに収録されている曲数/演奏時間/タイトルといった音声信号以外の情報のことです。

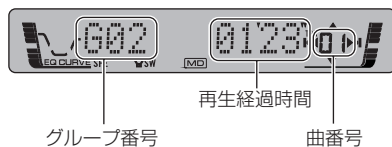
2 ▲または▼を押して、聞きたいグループを選ぶ

次のグループを選ぶ : ▲を押す
前のグループを選ぶ : ▼を押す

📌 ご注意

- グループ登録されたディスクを再生しているときだけ可能な操作です。

- MDをセットする ● グループを選ぶ
- 曲を選ぶ ● 早送り／早戻しをする ● MDを取り出す



3 ◀ または ▶ を押して、聞きたい曲を選ぶ

次の曲を選ぶ： ▶ を0.5秒未満押す
前の曲を選ぶ： ◀ を0.5秒未満押す

4 ◀ または ▶ を押して、早送り／早戻しをする

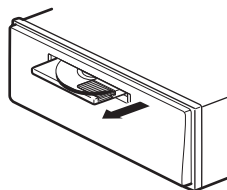
早送りをする：
▶ を0.5秒以上押し続ける
早戻しをする：
◀ を0.5秒以上押し続ける

お知らせ

- 曲を選んだときに、曲名が1回スクロールします。ただし、いま聞いている曲の頭出し時にはスクロールしません。

4 (EJECT) を押して、MDを取り出す

MDが出てきます。出てきたMDはすぐに取り出して、保管してください。



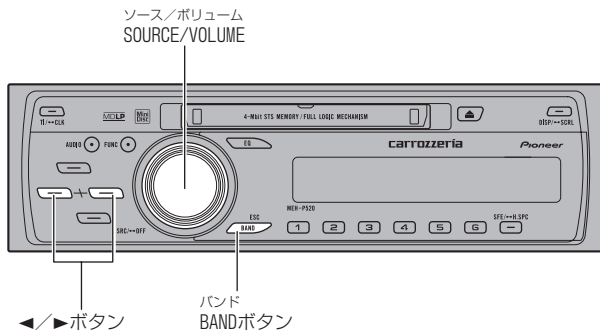
お知らせ

- MDをセットしたまま電源をOFFにしたり、ほかのソース（ラジオやマルチCDなど）に切り換えることもできます（➡10ページ）。

ラジオを聞く

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。
使うボタンは、SOURCE/VOLUME / BAND / ◀ / ▶ です。

この操作で使うボタン

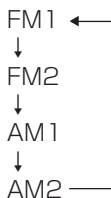


1 SOURCE/VOLUMEを押して、ソースをラジオにする

ラジオ放送を受信できます。

2 BANDを押して、バンドを切り換える

押すごとに、次の順序で切り換わります。



お知らせ

- 放送局をバンドごとに6局ずつ登録できます (➡22 ~ 23ページ)。

3 ◀または▶を押して、放送局を選ぶ(1ステップずつ)

■ 放送局を手動で選ぶ

高い周波数の放送局：

▶を0.5秒未満押す

低い周波数の放送局：

◀を0.5秒未満押す

■ 放送局を自動で選ぶ

高い周波数の放送局：

▶を0.5秒以上押す

低い周波数の放送局：

◀を0.5秒以上押す



お知らせ

- ◀または▶を押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局は自動での選局を、電波の弱い放送局は手動での選局をお勧めします。



ステレオ表示
バンド表示 受信周波数

4 ほかのソースに切り換えるか、電源をOFFにしてラジオの受信をやめる

→10ページ

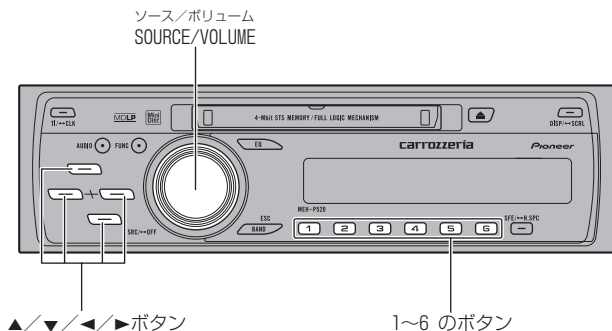
マルチCDでCDを聞く

ここだけの操作で、別売のマルチCDでCDを聞くことができます。
使うボタンは、SOURCE/VOLUME / ① ~ ⑥ / ▲ / ▼ / ◀ / ▶ です。

📌 ご注意

- 本機とマルチCDを組み合わせているときだけ操作できます。

この操作で使うボタン



1 SOURCE/VOLUMEを押して、ソースをマルチCDにする

📌 お知らせ

- 「CD TEXT」対応のマルチCDプレーヤー（「CDX-P670」など）に「CD TEXT」をセットしている場合、ほかのソースからマルチCDに切り換えたときに、ディスク名や曲名が1回スクロールします。

🔍 「CD TEXT」とは

「CD TEXT」は、CDのタイトル／歌手名／曲名などの文字情報が収録されたCDです。「CD TEXT」には基本的に、ディスクタイトル面に次のマークが付いています。ただし、付いていない「CD TEXT」もあります。



2 ▲または▼を押して、聞きたいCDを選ぶ

- 次のCDを選ぶ：▲を押す
- 前のCDを選ぶ：▼を押す

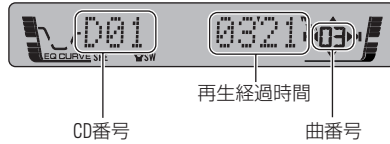
3 ◀または▶を押して、聞きたい曲を選ぶ

- 次の曲を選ぶ：▶を0.5秒未満押す
- 前の曲を選ぶ：◀を0.5秒未満押す

📌 お知らせ

- 「CD TEXT」対応のマルチCDプレーヤー（「CDX-P670」など）で「CD TEXT」を再生している場合、曲を選んだときに、曲名が1回スクロールします。ただし、いま聞いている曲の頭出し時にはスクロールしません。

- CDを選ぶ ● 曲を選ぶ
- 早送り／早戻しをする



4 ◀または▶を押して、早送り／早戻しをする

早送りをする：

▶を0.5秒以上押し続ける

早戻しをする：

◀を0.5秒以上押し続ける

5 ほかのソースに切り換えるか、電源をOFFにしてマルチCDの再生をやめる

→10ページ

お知らせ

- [1]～[6]を押して、聞きたいCDにワンタッチで切り換えることができます。1～6枚目のCDを選びたいときは、[1]～[6]を押してください。12枚型マルチCDプレーヤーを接続している場合に、7～12枚目のCDを選びたいときは、[1]～[6]を2秒以上押ししてください。

ご注意

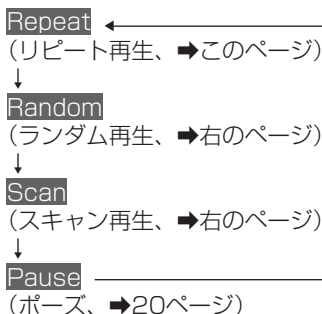
- マルチCDが準備動作（CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど）をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えるとREADYと表示されます。
- マルチCDの再生中にマガジンをマルチCDから取り出すと、NoMAGAZINEと表示されます。

機能を切り換える

いつもと違う曲順で聞くなど、さまざまな機能を備えています。機能は、切り換えて選んでから設定します。

1 (FUNCTION) を押して、機能を切り換える

押すごとに、次の順序で切り換わります。



2 設定する

→このページ～20ページ

3 BAND を押して、ふだんの再生画面に戻る

お知らせ

- 約30秒間、何も操作しなかったときは自動で戻ります。

再生範囲を切り換える

Repeat (リピート再生)

繰り返し (リピート) 再生の範囲を指定できます。範囲は、再生中の曲 / 再生中のグループ / ディスク全体の3種類です。

お知らせ

- リピート再生の範囲は、初期状態ではディスク全体に設定されています。
- グループが選べるのは、グループ登録されたディスクを再生しているときだけです。

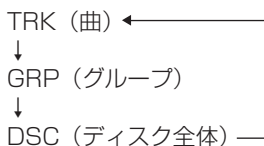
1 (FUNCTION) を押して、Repeatを選ぶ

→このページ



2 ◀または▶を押して、リピート再生の範囲を切り換える

押すごとに、次の順序で切り換わります。



範囲がTRK (曲) のときはRPT、GRP (グループ) のときはG RPTが表示されます。

いつもと違う曲順で聞く

Random (ランダム再生)

曲を順不同 (ランダム) に再生できます。ランダムに再生されるのは、Repeat (リピート再生) で選んだ範囲内の曲です。

1 ○(FUNCTION) を押して、Randomを選ぶ

→左のページ



2 ▲を押して、ランダム再生をONにする

次の曲から、ランダムに再生されます。OFFにするには、▼を押します。



ランダム再生中に表示されます。

お知らせ

- Repeat (リピート再生) の範囲がTRK (曲) のときにランダム再生をONにすると、再生範囲がDSC (ディスク全体) に切り換わってランダムに再生されます。

聞きたい曲やグループを探す

Scan (スキャン再生)

曲やグループの始めの部分だけを、約10秒ずつ徐々に再生できます (スキャン再生)。聞きたい曲を探すときに便利です。スキャン再生の動作は、グループの有無とRepeat (リピート再生) の範囲によって異なります。

1 ○(FUNCTION) を押して、Scanを選ぶ

→左のページ



2 ▲を押して、スキャン再生をONにする

スキャン再生が始まります。動作は次のとおりです。

グループ登録	Repeatの範囲	スキャン再生の動作
なし	DSC (ディスク全体)	ディスク内の全曲を、約10秒ずつ再生
あり	GRP (グループ)	再生中のグループの全曲を、約10秒ずつ再生
あり	DSC (ディスク全体)	ディスク内の全グループの1曲目だけを、約10秒ずつ再生



スキャン再生中に表示されます。

ご注意

- スキャン再生を始めて約30秒たつと、ふだんの再生画面に自動で戻ります。

3 聞きたい曲が再生されたら ▼ を押して、スキャン再生を OFFにする

曲またはグループを引き続き聞くことができます。



ご注意

- ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順1の操作でもう一度SCANを選びます。次に、▼を押してください。スキャン再生がOFFになります。



お知らせ

- スキャン再生を始めた曲またはグループまで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- Repeat (リピート再生) の範囲がTRK (曲) のときにスキャン再生をONにすると、再生範囲がGRP (グループ) に切り換わってスキャン再生されます。

再生を一時停止する

Pause (ポーズ)

MDの再生を一時停止できます。

1 (FUNCTION) を押して、Pauseを選ぶ

→18ページ



2 ▲ を押して、ポーズをONにする

MDの再生が一時停止します。OFFにするには、▼を押します。



一時停止中表示されます。

機能を切り換える

放送局を自動的に登録したり、表示する放送局の名前を変更する機能を備えています。機能は、切り換えて選んでから設定します。

1 (FUNCTION) を押して、機能を切り換える

切り換わり方は、ボタンの押し方によって異なります。

■ 2秒未満押した場合

BSM (→このページ) に切り換わります。

■ 2秒以上押した場合

ST-Name (放送局名選択、→24ページ) に切り換わります。

2 設定する

→このページ～24ページ

3 を押して、ふだんの受信画面に戻る

お知らせ

- BSMを選んでいる場合に、約30秒間、何も操作しなかったときは自動で戻ります。

複数の放送局を自動で登録する

BSM

受信状態の良い放送局を自動で探して、6局まで登録できます。この機能をBSMといいます。登録された放送局は、手軽に受信できます (→右のページ)。

BSMとは

BSMは、Best Stations Memory (ベスト・ステーションズ・メモリー) の略です。

1 を押して、登録するバンドを選ぶ

→14ページ

お知らせ


- バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を登録できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を登録しておきます。旅行などで、どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと便利です。バンド1に登録した放送局を消さずに、バンド2でその地域の放送局を受信できます。


2 (FUNCTION) を押して、BSMを選ぶ

→このページ



3 を押して、BSMを始める

放送局の登録処理をしている間、BSMの文字が点滅します。登録処理が完了すると点滅が終わり、 に登録された放送局の放送を受信します。

BSMの登録処理を途中でやめるには、 を押します。

ご注意

- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。

放送局を1局ずつ登録する

プリセットメモリー

①～⑥を使って、よく聞く放送局を1局ずつ手動で登録できます。この機能をプリセットメモリーといいます。登録した放送局は、手軽に受信できます（→このページ）。

1 **BAND** を押して、登録するバンドを選ぶ

→14ページ

2 ◀または▶ を押して、登録したい放送局を選ぶ

→14ページ

3 ①～⑥の1つを2秒以上押し、登録する



放送局の登録処理をしている間、押したボタンの番号が点滅します。

登録処理が完了すると番号の点滅が終わり、そのボタンに登録された放送局の放送を受信します。

登録した放送局を呼び出す

BSM（→左のページ）やプリセットメモリー（→このページ）で登録した放送局を、手軽に呼び出せます。呼び出しの方法は、直接、順番にの2通りあります。

直接呼び出す

1 **BAND** を押して、登録したバンドを選ぶ

→14ページ

2 ①～⑥の1つを押して、放送局を選ぶ



受信中の登録番号

順番に呼び出す

1 **BAND** を押して、登録したバンドを選ぶ

→14ページ

2 ▲または▼を押して、放送局を選ぶ

次の番号の放送局を選ぶ : ▲
前の番号の放送局を選ぶ : ▼



受信中の登録番号

ラジオのさまざまな機能を使う

放送局の名前を変更する

ST-Name

受信中の放送局の名前を表示できます(→50ページ)。受信中の放送局の名前と実際の表示が異なる場合、別の名前が選べます。



お知らせ

- 受信中の放送局の名前と実際の表示が異なるのは、同じ周波数が地域によって別の放送局に割り当てられているためです。

1 名前を変更したい放送局の放送を受信する

→14ページ



ご注意

- 名前を変更できるのは、受信中の放送局だけです。別の放送局の名前を変更したいときは、まずその放送局の放送を受信(→14ページ)してください。

2 (FUNCTION) を2秒以上押し、ST-Nameを選ぶ

→22ページ



3 ◀または▶を押して、放送局の名前を選ぶ

次の放送局の名前を選ぶ : ▶

前の放送局の名前を選ぶ : ◀



ご注意

- 放送局の名前が登録されていない場合は、No Dataと表示されます。
- 選べる放送局の名前は、本機に登録されているものだけです。

4

▲を押して、放送局の名前を変更する

選んだ放送局の名前に変更されます。



5

BANDを押して、ふだんの受信画面に戻る



お知らせ

- 放送局の名前を表示したくないときは、すべてが空白の表示を選んでください。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDを使っている場合は、モジュレーターの周波数に合わせて、放送局名の表示をFM M-CDに変更できます。
- パイオニア製のTVをFMモジュレーターで使っている場合は、モジュレーターの周波数に合わせて、放送局名の表示をFM TVsoundに変更できます。

機能を切り換える

いつもと違う曲順で聞くなど、さまざまな機能を備えています。機能は、切り換えて選んでから設定します。



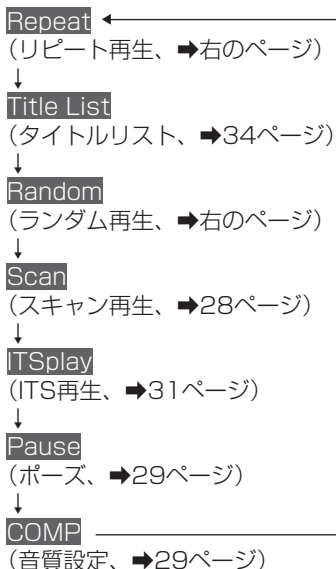
ご注意

- 「マルチCDのさまざまな機能を使う」の章で紹介している機能は、本機と別売のマルチCDを組み合わせているときだけ操作できます。

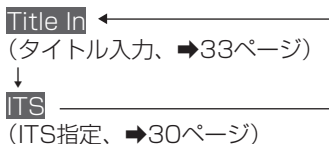
1 ○(FUNCTION) を押して、機能を切り換える

切り換わり方は、ボタンの押し方によって異なります。

- 2秒未満押した場合
押すごとに、次の順序で切り換わります。



- 2秒以上押した場合
○(FUNCTION) を2秒以上押して Title In (タイトル入力) が表示されたあと、○(FUNCTION) を押すごとに、次の順序で切り換わります。



ご注意

- 「CD TEXT」対応のマルチCDプレーヤー(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときは、Title In (タイトル入力)には切り換わりません。「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。

2 設定する

→右のページ～34ページ

3 BAND を押して、ふだんの再生画面に戻る



お知らせ

- ○(FUNCTION) を2秒未満押して選ぶ機能の場合に、約30秒間、何も操作しなかったときは自動で戻ります。

再生範囲を切り換える

Repeat (リピート再生)

繰り返し (リピート) 再生の範囲を指定できます。範囲は、再生中の曲 / 再生中のCD全体 / マルチCDにセット済みの全CDの3種類です。

お知らせ

- リピート再生の範囲は、初期状態ではマルチCDにセット済みの全CDに設定されています。

1 ◎ (FUNCTION) を押して、Repeatを選ぶ

→左のページ



2 ◀ または ▶ を押して、リピート再生の範囲を切り換える

押すごとに、次の順序で切り換わります。



範囲がDSC (ディスク全体) またはTRK (曲) のときにRPTが表示されます。

いつもと違う曲順で聞く

Random (ランダム再生)

曲を順不同 (ランダム) に再生できます。ランダムに再生されるのは、Repeat (リピート再生) で選んだ範囲内の曲です。

1 ◎ (FUNCTION) を押して、Randomを選ぶ

→左のページ



2 ▲ を押して、ランダム再生をONにする

次の曲から、ランダムに再生されます。OFFにするには、▼を押します。



ランダム再生中に表示されます。

お知らせ

- ランダム再生中の画面の表示は、Repeat (リピート再生) の範囲によって異なります。
 - ・ DSC (CD全体) のとき : D.RDM
 - ・ MCD (全CD) のとき : RDM
- Repeat (リピート再生) の範囲がTRK (曲) のときにランダム再生をONにすると、再生範囲がDSC (CD全体) に切り換わってランダムに再生されます。

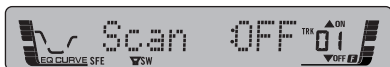
聞きたい曲やCDを探す

Scan (スキャン再生)

曲やCDの始めの部分だけを、約10秒ずつ次々に再生できます (スキャン再生)。聞きたい曲を探すときに便利です。スキャン再生の動作は、Repeat (リピート再生) の範囲によって異なります。

1 (FUNCTION) を押して、Scanを選ぶ

→26ページ



2 ▲を押して、スキャン再生をONにする

曲の始めの約10秒が、次々に再生されます。

Repeatの範囲	スキャン再生の動作
DSC (CD全体)	CD内の全曲を、約10秒ずつ再生
MCD (全CD)	マルチCD内にある全CDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生



スキャン再生中に表示されます。

お知らせ

- スキャン再生中の画面の表示は、Repeat (リピート再生) の範囲によって異なります。
 - ・ DSC (CD全体) のとき : D.Scan
 - ・ MCD (全CD) のとき : Scan

ご注意

- スキャン再生を始めて約30秒たつと、ふだんの再生画面に自動で戻ります。

3 聞きたい曲が再生されたら▼を押して、スキャン再生をOFFにする

曲やCDを引き続き聞くことができます。

ご注意

- ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順1の操作でもう一度SCANを選びます。次に、▼を押してください。スキャン再生がOFFになります。

お知らせ

- スキャン再生を始めた曲またはCDまで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- Repeat (再生範囲の切り換え) の範囲がTRK (曲) のときにスキャン再生をONにすると、再生範囲がDSC (CD全体) に切り換わってスキャン再生されます。

再生を一時停止する

Pause (ポーズ)

マルチCDの再生を一時停止できます。

1 ○(FUNCTION) を押して、Pauseを選ぶ

→26ページ



2 ▲を押して、ポーズをONにする

マルチCDの再生が一時停止します。
OFFにするには、▼を押します。



一時停止中に表示されます。

音質を調節する

COMP

音質を調節する機能として、COMPとDBEがあります。COMPはクラシックなど音量差の大きい曲に、DBEは低音域が不足していると感じる曲に効果的です。

📌 ご注意

- COMP/DBE機能を備えたマルチCDを組み合わせたときだけ操作できます。

❓ COMPとは

COMPは、Compression (コンプレッション) の略です。大きな音と小さな音の音量差 (ダイナミックレンジ) を小さくします。

❓ DBEとは

DBEは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミック・バス・エンファシス) の略です。低音域を押し上げます。

1 ○(FUNCTION) を押して、COMPを選ぶ

→26ページ



📌 ご注意

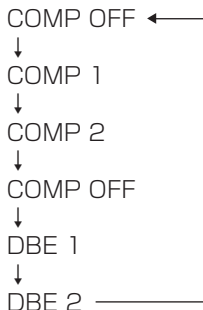
- COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、NO COMPと表示されて操作できません。

マルチCDのさまざまな機能を使う

次ページに続く

2 ▲または▼を押して、COMP/DBEの種類を選ぶ

押すごとに、次の順序で切り換わります。



選んでいるCOMP/DBEの種類が表示されます。

お知らせ

- COMPとDBEの効果はどちらも、1より2のほうが大きくなります。
- 本機にはこのほかにも、音質などを細かく調節する機能があります (→36～47ページ)。

聞きたい曲を指定する

ITS (ITS指定)

ITS機能を使うと、聞きたい曲だけを再生できます (→右のページ)。そのためには、曲をあらかじめ指定しておきます。

ITSとは

ITSは、Instant Track Selection (インスタント・トラック・セレクション) の略です。

1 ▲または▼を押して、曲を指定したいCDを再生する

→16ページ

2 ○(FUNCTION) を2秒以上押してから、○(FUNCTION) を押し、ITSを選ぶ

→26ページ



3 ◀または▶を押して、指定したい曲を選ぶ

4 ▲を押して、曲を指定する



指定が完了すると、ITS Inが約2秒間表示されます。

5 BANDを押して、ふだんの再生画面に戻る

指定した曲だけ再生する

ITSPlay (ITS再生)

あらかじめ指定した (→左のページ) 曲だけを再生できます。

1 (FUNCTION) を押して、ITSPlayを選ぶ

→26ページ



2 ▲ を押して、ITS再生をONにする

ITS (ITS指定) で指定した曲だけが再生されます。

OFFにするには、▼を押します。



ITS再生中に表示されます。

ご注意

- 再生されるのは、Repeat (リピート再生) で選んだ範囲内の曲です。範囲内に指定した曲がない場合は、ITS再生は行われません。ITS Emptyと2秒間表示されます。

曲の指定を解除する

ITS (ITS解除)

ITS再生用の曲の指定 (→30ページ) を解除できます。解除の方法は、1曲ずつ、CDごとの2通りあります。

1 曲ずつ解除する

1 ITS再生をONにする

→31ページ

2 ◀または▶を押して、指定を解除したい曲を再生する

3 ○(FUNCTION) を2秒以上押してから、○(FUNCTION) を押し、ITSを選ぶ

→26ページ



4 ▼を押して、再生中の曲の指定を解除する

次に指定されている曲が再生されます。
次に登録されている曲の再生が始まります。



次に指定されている曲

5 BANDを押して、ふだんの再生画面に戻る



ご注意

- Repeat (リピート再生) の範囲に指定した曲がなくなった場合は、ITS Emptyが2秒間表示されて、ITS再生はOFFになります。

CDごとに解除する

1 ITS再生をOFFにする

→31ページ

2 ▲または▼を押して、指定を解除したいCDを再生する

3 ○(FUNCTION) を2秒以上押してから、○(FUNCTION) を押し、ITSを選ぶ

→26ページ



4 ▼を押して、再生中のCDの指定を解除する



解除が完了すると、約2秒間表示されます。

5 BANDを押して、ふだんの再生画面に戻る

CDのタイトルを入力する

Title In(タイトル入力)

CDのタイトルを表示したり、タイトルを見て聞きたいCDを選んだりできます。そのためには、タイトルをあらかじめ入力しておきます。

📌 ご注意

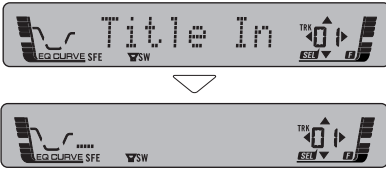
- タイトル入力機能を備えたマルチCDを組み合わせたときだけ操作できます。

1 ▲または▼を押して、タイトルを入力したいCDを再生する

→16ページ

2 ⊙(FUNCTION) を2秒以上押し、Title Inを選ぶ

→26ページ



📌 ご注意

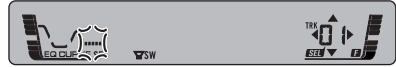
- ITSが表示されたときは、⊙ (FUNCTION) をもう一度押しと切り換わります。
- 「CD TEXT」に対応しているマルチCD (例: 「CDX-P670」) で「CD TEXT」を再生しているときは、切り換わりません。「CD TEXT」に収録されているCDタイトルは変更できないためです。

3 ▲ / ▼ / ◀ / ▶ を押して、タイトルを入力する

- 入力する位置を移動する

右に : ▶

左に : ◀



入力する位置でカーソルが点滅します。

- 文字を選ぶ

次の文字 : ▲

前の文字 : ▼



選んだ文字が点滅します。

📝 お知らせ

- ①、②、③で入力する文字の種類が選べます。

押すボタン	選べる文字
① (押しごとに切り換わります)	a ~ z, _ (空白) A ~ Z, 0 ~ 9, 記号 (! " # など), _ (空白)
②	0 ~ 9, 記号 (! " # など), _ (空白)
③ (押しごとに切り換わります)	ア ~ ン, ー (音引き), _ (空白) ア ~ オ, ヤ, ュ, ヨ, ツ, °, _ (空白)

- タイトルを入力しているとき (文字が点滅しているとき) に **BAND** を押し、ふだんの再生画面に戻ります。入力中のタイトルは登録されません。

4 入力が終わったら、▶を押して10文字目を点滅させる

余ったところは空白のままにしておきます。



5 ▶を押して、入力したタイトルを登録する

入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが登録されます。



6 BANDを押して、ふだんの再生画面に戻る



お知らせ

- タイトルは、10文字まで入力できます。
- タイトルの登録はCDごとに行われます。CDを取り出しても、そのCDでの登録内容は消去されません。



ご注意

- 登録できる内容は、Title InとITS (ITS指定、→30ページ) を合わせてCD100枚ぶんです。100枚を超えたときは、いちばん古い登録の内容が消去されて、新しいCDが登録されます。
- 「CD TEXT」には、タイトルを入力できません。

タイトルを見て聞きたいCDを探す

Title List (タイトルリスト)

タイトルを見ながら、聞きたいCDが探せます。

1 (FUNCTION)を押して、Title Listを選ぶ

→26ページ



2 ◀または▶を押して、聞きたいCDを選ぶ

次のタイトルを選ぶ：▶
前のタイトルを選ぶ：◀



登録済みのタイトルが表示されます。また、そのCDのCD番号が点滅します。



お知らせ

- タイトルが入力されていないCDは、CD番号だけが表示されます。

3 ▲を押して、選んだCDを再生する



イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、音質を手軽に調節できます。

イコライザーカーブの種類と効果

イコライザーカーブ	効果
Super Bass	低音が厚みを持ち、迫力のある重低音が響きます。
Powerful	低音と高音が厚みを持ち、アップテンポな曲がメリハリよく聞こえます。
Natural	自然なバランスで、聞き疲れしない心地よい音を再生します。
Vocal	中高域が厚みを持ち、伸びやかなボーカルを際立たせます。
EQ Flat	音の補正をしません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。
Custom	好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます(➡40～41ページ)。

1 EQを押して、イコライザーカーブを切り換える

押すごとに、次の順序で切り換わります。



ご注意

- 交通情報(➡48ページ)を受信しているときは、イコライザーカーブは選べません。

イコライザーカーブに簡単な補正を加える

H.SPC

イコライザーカーブごとに低音と高音を補正します。曲のコントラストをはっきりさせ、ボーカルを際立たせます。

H.SPCとは

H.SPCは、Harmonic Spice(ハーモニックスパイス)の略です。

1 (SFE) を2秒以上押して、H.SPCに切り換える

2秒以上押すごとに、SFEとH.SPCが切り換わります。



H.SPCを選んでいるときに点灯します。

2 (SFE) を押して、ハーモニックスパイスをONにする

OFFにするには、(SFE) をもう一度押します。

お知らせ

- イコライザーカーブにCustomを選んでいる場合、ソースごとにCustomカーブの低音と高音を調節できます。

前方定位を設定する

SFE

フロント／リアの出力特性をバランスよく補正します。これにより、明確な音像をリスナーの前方に作り出します。さらに、乗車位置を選択することで、より好みに合った設定が実現できます。

？ SFEとは

SFEは、Sound Focus Enhancer (サウンド・フォーカス・エンハンサー) の略です。

1 (SFE) を2秒以上押して、SFEに切り換える

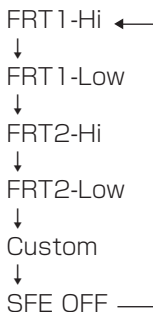
2秒以上押すごとに、SFEとH.SPCが切り換わります。



SFEを選んでいるときに点灯します。

2 (SFE) を押して、SFEの種類を選ぶ

押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 ◀または▶を押して、乗車位置を切り換える

右に移動する：▶
左に移動する：◀

L (左)、C (中央)、R (右) のの中から選ぶことができます。



✎ お知らせ

- FRT1およびFRT2の効果はどちらも、LowよりHiのほうが大きくなります。
- Customには、低音と高音を調節したSFEが登録されます (→42ページ)。

機能を切り換える

イコライザーカーブやハーモニックスバイス、SFEのほかにも、音を調節するさまざまな機能を備えています。機能は、切り換えて選んでから設定します。

1 (AUDIO) を押して、機能を切り換える

切り換わり方は、ボタンの押し方によって異なります。

■ 2秒未満押した場合

押すごとに、次の順序で切り換わります。切り換わる項目は、P/O (RCA外部出力) (⇒54ページ) の設定によって異なります。

● P/O :SubW (サブウーファー出力) のとき

Fader : 0
(音量バランス調節、⇒39ページ)

↓
EQ-Low
(イコライザー補正、⇒40ページ)

↓
BASS 0 : 63
(低音・高音レベル調節、⇒42ページ)

↓
LOUD : OFF
(ラウドネス、⇒43ページ)

↓
Sub.W : NOR
(サブウーファー ON/OFF設定、⇒43ページ)

↓
80Hz : 0
(サブウーファー調節、⇒43ページ)

↓
HPF : OFF
(ハイパスフィルター、⇒46ページ)

↓
SLA _____
(⇒46ページ)

● P/O :Full (ノンフェーディング出力) のとき

Fader : 0
(音量バランス調節、⇒39ページ)

↓
EQ-Low
(イコライザー補正、⇒40ページ)

↓
BASS 0 : 63
(低音・高音レベル調節、⇒42ページ)

↓
LOUD : OFF
(ラウドネス、⇒43ページ)

↓
Non FAD:ON
(ノンフェーディングON/OFF設定、⇒45ページ)

↓
Non FAD: 0
(ノンフェーディング調節、⇒45ページ)

↓
HPF : OFF
(ハイパスフィルター、⇒46ページ)

↓
SLA _____
(⇒46ページ)

📌 ご注意

- 交通情報(⇒48ページ)を受信しているときは、EQ-Low (イコライザー補正)には切り換わりません。
- Sub.W :NOR (サブウーファー ON/OFF設定)をOFFにした場合は、80Hz : 0 (サブウーファー調節)には切り換わりません。
- Non FAD:ON (ノンフェーディングON/OFF設定)をOFFにした場合は、Non FAD: 0 (ノンフェーディング調節)には切り換わりません。
- ラジオのFMを聞いているときは、SLAには切り換わりません。

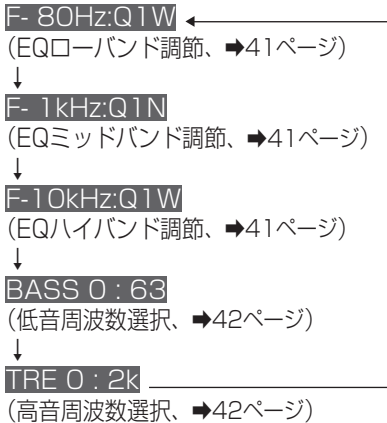
前後左右の音量バランスを調節する

Fader : 0 (フェーダー/バランス)

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節できます。

■ 2秒以上押した場合

F- 80Hz:Q1Wが表示されたあと ⊙ (AUDIO) を押すごとに、次の順序で切り換わります。



📌 ご注意

- 交通情報(→48ページ)を受信しているときは、切り換わりません。
- H.SPCを選んでいる場合には、その設定がONで、イコライザーカーブにCustomを選んでいるときだけ、BASS 0 : 63 (低音周波数選択)およびTRE 0 : 2K (高音周波数選択)に切り換わります。なお、SFEを選んでいる場合には、常に切り換わります。

2 機能を設定する

→このページ～47ページ

3 BANDを押して、ふだんの画面に戻る

📌 お知らせ

- ⊙ (AUDIO) を2秒未満押して選ぶ機能の場合、約30秒間、何も操作しなかったときは自動で戻ります。

📌 ご注意

- 画面の表示は、初期状態のものです。設定内容によっては、実際の表示と異なります。

1 ⊙ (AUDIO) を押して、Fader : 0 (音量バランス調節) を選ぶ

→左のページ



2 ▲または▼を押して、前後の音量バランスを調節する

前を強める : ▲
後ろを強める : ▼

調節できる範囲はF15～R15です。



3 ◀または▶を押して、左右の音量バランスを調節する

右を強める : ▶
左を強める : ◀

調整できる範囲はL9～R9です。



イコライザーカーブを補正する

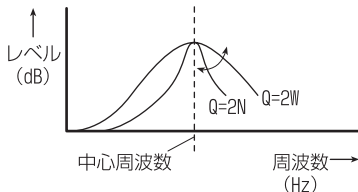
EQ-Low

あらかじめ用意されたイコライザーカーブに対して、バンドごとにレベルを調節できます。イコライザーカーブの特定のバンドに過不足を感じたときなどに使うと効果的です。



イコライザーカーブの補正・調節の方法

●イコライザーカーブは、レベル/中心周波数/Qファクター（傾き）の3つの要素を補正・調節して決定します。イコライザーカーブのイメージは、次の図のとおりです。



イコライザーカーブの補正・調節に、決まったルールはありません。音を聞きながら、好みの音質にしてください。

4

▲または▼を押して、レベルを調節する

強める：▲

弱める：▼

調整できる範囲は-6～+6です。



お知らせ

●イコライザーカーブを補正すると、Customに登録されます。



ご注意

●交通情報(→48ページ)を受信しているときは、EQ-Low (イコライザー補正)には切り換わりません。

音を調節する

1

EQを押して、調整したいイコライザーカーブを選ぶ

→36ページ

2

⊙ (AUDIO) を押して、EQ-Low (イコライザー補正) を選ぶ

→38ページ



3

◀または▶を押して、調整したいバンドを選ぶ

Low (低音域)、Mid (中音域)、High (高音域)の中から選ぶことができます。



イコライザーカーブを細かく調節する

F- 80Hz:Q1W

あらかじめ用意されたイコライザーカーブに対して、バンドごとに中心周波数とQファクター（傾き）を調節できます。

 イコライザーカーブの補正・調節の方法
●→左のページ。

1 を押して、調節したいイコライザーカーブを選ぶ

→36ページ

2 (AUDIO) を2秒以上押して、F- 80Hz:Q1W (EQローバンド調節) を選ぶ

→39ページ



3 (AUDIO) を押して、調節したいバンドを選ぶ

どのバンドが選ばれているかは、中心周波数の値を見るとわかります。

選ばれているバンド	中心周波数 (Hz)
EQローバンド	40、80、100、160
EQミッドバンド	200、500、1k、2k
EQハイバンド	3k、8k、10k、12k



中心周波数

4 ◀または▶を押して、中心周波数を選ぶ

5 ▲または▼を押して、選んだバンドのQファクターを選ぶ

急な傾きを選ぶ : ▲
緩やかな傾きを選ぶ : ▼

2N、1N、1W、2Wの中から選べます。



お知らせ

- Qファクターの傾きは2Nが最も急で、1N、1W、2Wの順に緩やかになります。
- イコライザーカーブを調節すると、Customに登録されます。

6 を押して、ふだんの画面に戻る

低音・高音のレベルを調節する

BASS/TRE(バス/トレブル)

低音・高音のカットオフ周波数を選んで、レベルを調節できます。

📌 ご注意

- H.SPC (→36ページ) を選んでいる場合には、その設定がONで、イコライザーカーブにCustomを選んでいるときだけ、低音・高音のレベルを調節できます。なおSFEを選んでいる場合には、常に調節が可能です。
- SFE (→37ページ) がFRT1の場合、低音調節はリア出力だけに効果があります。
- SFE (→37ページ) がFRT1またはFRT2の場合、高音調節はフロント出力だけに効果があります。

音を調節する

1 **⊙ (AUDIO) を2秒以上押してから、⊙ (AUDIO) を押して、BASS 0 : 63 (低音周波数選択) または TRE 0 : 2k (高音周波数選択) を選ぶ**

→39ページ



2 **◀ または ▶ を押して、レベルを調節したい周波数を選ぶ**

高い周波数を選ぶ : ▶

低い周波数を選ぶ : ◀

次の中から選べます。

低音周波数選択の場合 :

40、63、100、160 (Hz)

高音周波数選択の場合 :

2k、4k、6k、10k (Hz)



3 **BAND を押して、ふだんの画面に戻る**

4 **⊙ (AUDIO) を押して、BASS 0 : 63 (低音・高音レベル調節) を表示する**

→38ページ



5 **◀ または ▶ を押して、レベルを調節するバンドを選ぶ**

TRE (高音レベル調節) を選ぶ : ▶

BASS (低音レベル調節) を選ぶ : ◀



6 **▲ または ▼ を押して、レベルを調節する**

大きくする : ▲

小さくする : ▼

調節できる範囲は-6 ~ +6です。



低音・高音の不足感を補う

LOUD (ラウドネス)

小さな音量で音楽を聞いているときの低音・高音の不足感を補正します。メリハリのある音を実現できます。

1 (AUDIO) を押して、LOUDを選ぶ

→38ページ



2 ▲を押して、ラウドネスをONにする

OFFにするには、▼を押します。



ラウドネスがONのときに表示されます。

3 ◀または▶を押して、ラウドネスの効果を選ぶ

強い効果を選ぶ：▶

弱い効果を選ぶ：◀

LOW (弱)、MID (中)、HI (強) の中から選べます。



本機でサブウーファースの音のつながりを調節する

Sub.W :NOR、80Hz : 0

RCA端子に接続したサブウーファースの位相／カットオフ周波数／レベルです。フロント・リアスピーカーとの音のバランスが自然になるように設定してください。

ご注意

- P/O (RCA外部出力設定、→54ページ) をP/O :FULLにした場合、サブウーファースの調節はできません。

お知らせ

- Sub.W :NOR (サブウーファース ON/OFF設定) は、初期状態ではONになっています。

? カットオフ周波数とは

選んだ周波数より上または下の音域をカットします。この周波数を、カットオフ周波数といえます。

サブウーファースのカットオフ周波数の設定では、上の音域がカットされて低音域だけが出力されます。

? 位相とは

サブウーファースから出力される音の中には、フロント・リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内の条件によりサブウーファースとフロント・リアスピーカーの音の位相が反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。

この現象を防ぐための機能が、サブウーファースの位相切り換えです。サブウーファースの音が自然に聞こえるように、車内の条件に合わせて位相の正相または逆相を選んでください。

正相は、サブウーファースとフロント・リアスピーカーから同時に音が出力されます。逆相は、サブウーファースとフロント・リアスピーカーでタイミングをずらして音が出力されます。

- 1** **○ (AUDIO) を押して、Sub.W :NOR (サブウーファー ON/OFF設定) を選ぶ**

→38ページ



- 2** **▲ を押して、サブウーファーをONにする**

OFFにするには、▼を押します。

- 3** **◀または▶を押して、位相を切り換える**

NOR (正相) を選ぶ : ▶
REV (逆相) を選ぶ : ◀



- 4** **○ (AUDIO) を押して、80Hz : 0 (サブウーファー調節) を選ぶ**

→38ページ



📌 ご注意

- Sub.W :NOR (サブウーファー ON/OFF設定) をOFFにした場合は、80Hz : 0 (サブウーファー調節) には切り換わりません。

- 5** **◀または▶を押して、カットオフ周波数を選ぶ**

高い周波数を選ぶ : ▶
低い周波数を選ぶ : ◀

50、80、125 (Hz)の中から選べます。



- 6** **▲または▼を押して、レベルを調節する**

大きくする : ▲
小さくする : ▼

調節できる範囲は-6 ~ +6です。



外部アンプなどでサブウーファーを調節する場合の設定をする

Non FAD:ON、Non FAD: 0 (ノンフェーディング)

本機のローパスフィルター（サブウーファー調節）を通さずに、音声信号を原音のままRCA端子から出力できます。本機では、その出力レベルを調節できます。

📌 ご注意

- P/O (RCA外部出力設定) をP/O :SubWにした場合、ノンフェーディングの調節はできません。

1 (AUDIO) を押して、Non FAD:ON (ノンフェーディングON/OFF設定) を選ぶ

→38ページ



2 ▲を押して、ノンフェーディングをONにする

OFFにするには、▼を押します。

3 (AUDIO) を押して、Non FAD: 0 (ノンフェーディング調節) を選ぶ



📌 ご注意

- Non FAD:ON (ノンフェーディングON/OFF設定) をOFFにした場合は、Non FAD: 0 (ノンフェーディング調節) には切り換わりません。

4 ▲または▼を押して、レベルを調節する

大きくする : ▲
小さくする : ▼

調節できる範囲は-6 ~ +6です。



低い音をスピーカーから出力しない

HPF :OFF(ハイパスフィルター)

ハイパスフィルターを使うと、フロント・リアスピーカーのある一定の周波数(カットオフ周波数)から下の音域(低域)をカットできます。適切なカットオフ周波数を選ぶことで、サブウーファーとの音のつながりを自然なものにできます。



SFEと組み合わせて使用する場合のご注意

- SFE(サウンド・フィールド・エンハンサー、→37ページ)に切り換えると、HPF(ハイパスフィルター)は自動でOFFになります。SFEとHPFの両方を設定するときは、SFEの種類を選んでから、HPFを設定してください。

1

◎(AUDIO)を押して、HPF:OFF(ハイパスフィルター)を選ぶ

→38ページ



2

▲を押して、ハイパスフィルターをONにする

OFFにするには、▼を押します。

3

◀または▶を押して、カットオフ周波数を選ぶ

高い周波数を選ぶ : ▶

低い周波数を選ぶ : ◀

50、80、125(Hz)の中から選べます。



各ソースの音量をそろえる

SLA

ソースを切り換えたときに、音量がソースごとに違うことがあります。SLAを使うと、FMの音量を基準にして各ソースの音量がそろえられます。



SLAとは

SLAは、Source Level Adjuster(ソース・レベル・アジャスター)の略です。

1

SOURCE/VOLUMEを押してFMを受信し、FMの音量を確かめる

→14ページ

2

SOURCE/VOLUMEを押して、調節したいソースに切り換える

→10ページ

3

◎(AUDIO)を押して、SLAを選ぶ

→38ページ



ご注意

- FMを聞いているときはSLAには切り換わりません。

4

▲または▼を押して、 レベルを調節する

大きくする：▲

小さくする：▼

調節できる範囲は-4 ~ +4です。



ご注意

- AM、テレビ、MD、CD、External（エクスターナルユニット）、AUX（外部機器）のそれぞれの音量差を調節できます。なお、1枚型CDとマルチCD、およびAMと交通情報（→48ページ）は同じ設定になります。

交通情報を受信する



高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。この機能は、電源がOFFのとき、またどのソースからでも操作可能です。

1 (TI) を押して、交通情報を受信する

AM 1 620 kHzの交通情報を受信します。



2 または を押して、周波数を切り換える

- 1 629 kHzにする : 
- 1 620 kHzにする : 



3 (TI) を押して、交通情報の受信をやめる

交通情報を受信する前の状態に戻ります。

お知らせ

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用として設定できます。
- 交通情報を受信すると、イコライザーカーブが交通情報用のものに自動で切り換わりません。交通情報の受信をやめると、元のイコライザーカーブに戻ります。


ご注意

- 交通情報を受信しているときは、EQ-Low (イコライザー補正、[➡40ページ](#)) には切り換わりません。

時計を表示する

本機の電源のON/OFFにかかわらず、時計を表示できます。

1 (TI) を2秒以上押して、時計を表示する

OFFにするには、もう一度  (TI) を2秒以上押します。

お知らせ

- 本体の電源がONで時計を表示しているとき、ほかの操作をすると時計の表示は一度解除されます。時計は約25秒後に再び表示されます。
- 時刻の合わせ方については、[➡52ページ](#)。

音量を瞬時に小さくする

アッテネーター

音量を瞬時に小さくできます。車内の会話や車外の音が聞き取りにくいときになどに、便利です。

1 リモコンの **ATT** (⇒8ページ) を押して、アッテネーターをONにする

音量が約1/10になります。

OFFにするには、もう一度 **ATT** を押します。



アッテネーターがONのときに点滅します。

よく使う機能を直接操作する

ダイレクトファンクション

リモコンの **DF** を押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作できます。内蔵MDまたはマルチCDのときは再生の一時停止に、ラジオのときはBSMの開始に、テレビのときはBSSMの開始になります。

内蔵MDまたはマルチCDのとき

1 リモコンの **DF** (⇒8ページ) を押して、ポーズをONにする

再生が停止します (⇒20、29ページ)。

OFFにするには、もう一度 **DF** を押します。

ラジオのとき

1 リモコンの **DF** (⇒8ページ) を2秒以上押して、BSMを始める

BSMが始まります (⇒22ページ)。

BSMの登録処理を途中でやめるには、もう一度 **DF** を押します。

テレビのとき

1 リモコンの **DF** (⇒8ページ) を2秒以上押して、BSSMを始める

BSSMが始まります (⇒テレビの取扱説明書)。

BSSMの登録処理を途中でやめるには、もう一度 **DF** を押します。

ミュート機能

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声はミュートされます。

ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションシステムと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュート機能が働きます。



お知らせ

- ミュート機能が働いているときの音量は“0”です。
- ミュート機能が解除されると、自動的に元の音量に戻ります。

ふだんの再生・受信画面の表示を変える

ふだんの再生画面には、再生経過時間や周波数のほか、ディスク名や放送局名などを表示できます。また、長いタイトルは、スクロールして表示できます。

表示を切り換える

1 (DISPLAY) を押して、表示を切り換える

押すごとに、次の順序で切り換わります。

■ MDの場合

再生経過時間 ←
↓
ディスク名 (Disc Title)
↓
グループ名 (GroupTitle)
↓
曲名 (TrackTitle)

■ ラジオの場合

周波数 ←
↓
放送局名

■ マルチCDの場合

再生経過時間 ←
↓
ディスク名 (Disc Title)

■ マルチCDでの「CD TEXT」の場合



「CD TEXT」とは

「CD TEXT」は、CDのタイトル／歌手名／曲名などの文字情報が収録されたCDです。「CD TEXT」には基本的に、ディスクタイトル面に次のマークが付いています。ただし、付いていない「CD TEXT」もあります。



タイトルをスクロールして表示する

1

⏏ (DISPLAY) を2秒以上押して、表示する

10文字より長いタイトルが、スクロールして表示されます。



ご注意

- 「CD TEXT」に対応しているマルチCD（CDX-P670）などの機能です。



お知らせ

- 本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。
- 一度に表示できるのは、10文字までです。
- 表示を切り換えたとき、隠れている文字は1回スクロールして表示されます。
- MDでグループ名を表示できるのは、グループ登録されたディスクのときだけです。
- タイトルが入力されていないMDで表示を切り換えると、No Dataと表示されます。
- 長時間録音されたMDの曲名の先頭には、LP:があらかじめ入力されている場合があります。ただし本機では、MDの録音方式にかかわらずこのLP:は表示しません。
- タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、NO DSC TTLと表示されます。
- トラックアーティストネーム（歌手名）などが収録されていない「CD TEXT」で表示を切り換えると、No Nameなどと表示されます。

機能を切り換える

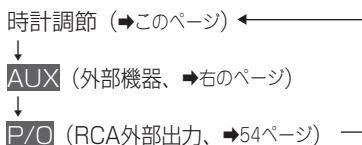
時計などふだんあまり変更する必要がない機能は、初期設定として用意していません。変更するにはまず、機能を選びます。

1 SOURCE/VOLUMEを1秒以上押し、電源をOFFにする

2 ○(FUNCTION) を2秒以上押し、初期設定の項目を表示する

3 ○(FUNCTION) を押し、機能を選ぶ

押すごとに、次の順序で切り換わります。



4 機能を設定する

→このページ～54ページ

5 BAND を押し、初期設定の画面を解除する

電源がOFFの状態に戻ります。

時計を合わせる

時計を表示する (→48ページ) ために、時計を合わせておきます。

1 ○(FUNCTION) を押し、時計調節を選ぶ

→このページ



2 ◀または▶を押し、時または分を選ぶ

押すごとに、時と分が切り換わります。

3 ▲または▼を押し、時刻を合わせる

時刻を進める : ▲
時刻を戻す : ▼



お知らせ

●時または分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

外部機器の音声を聞く 設定にする

AUX

本機にポータブル音楽再生機器やVTRなどの外部機器を接続して、その音声が聞けます。また、機器の名称を入力して表示できます。

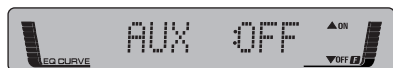
外部機器を接続するには

- 本機に外部機器を接続するには、別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」が必要です。また、外部機器はRCA出力端子を備えている必要があります。詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

設定をONにしてソースを切り換える

1 (FUNCTION) を押して、 AUXを選ぶ

→左のページ



2 ▲を押して、 AUXをONにする

OFFにするには、▼を押します。

3 SOURCE/VOLUMEを押して、 ソースをAUXに切り換える

→10ページ

外部機器の音声が出力できます。



名称を入力／表示する

1 SOURCE/VOLUMEを押して、 ソースをAUXに切り換える

→10ページ

2 (FUNCTION) を2秒以上 押して、名称入力の画面にする

3 名称を入力して、登録する

マルチCDのタイトル入力(→33ページ)と同様の操作で、入力／登録します。手順3～手順5を参照してください。

AUXの代わりに、入力した名称が表示されます。



VTRと入力した場合の表示。

初期設定を変更する

RCA端子からの出力方法を選ぶ

P/O

RCA端子からの出力方法が選べます。本機では、RCA端子に外部アンプを接続してサブウーファーを使用できます。RCA端子からの出力方法は、サブウーファアの調節を本機と外部アンプのどちらにするかによって決めます。

1 (FUNCTION) を押して、P/Oを選ぶ

→52ページ



2 ◀または▶を押して、出力方法を選ぶ

Full (フルレンジ出力) : ▶
SubW (サブウーファー出力) : ◀

Fullは外部アンプでサブウーファアを調節し、SubWは本機でサブウーファアを調節する場合に選びます。Fullでは、原音のまま出力されます。



初期設定を変更する



お知らせ

- Fullに設定した場合は、ノンフェーディングの設定をしてください (→45ページ)。
- SubWに設定した場合は、サブウーファアの設定をしてください (→43ページ)。

故障かな？と思ったら

故障かな？ と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



それでも 直らないときは

「保証書とアフターサービス」をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症 状	原 因	処 置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているか、もう一度確認してください(➡取付説明書)。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください(➡取付説明書)。
音が出ない。 音が小さい。	音量を下けている。	音量を上げてください(➡10ページ)。
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください(➡49ページ)。
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください(➡39ページ)。
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください(➡39ページ)。
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください(➡39ページ)。

MD

症 状	原 因	処 置
MDの再生中に、大きな雑音が出る。	MDが極端に汚れている。	MDを交換してください。
	MDが曇っている。 MDに水滴が付いている。	
MDの再生が途中で止まる。	録音されていないMDを挿入した。	
MDが自動的に出てくる。	MDが正しい方向に挿入されていない。	MDを取り出し、正しい方向に挿入してください (➡12ページ)。

ラジオ

症 状	原 因	処 置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください (➡14ページ)。
	放送局の電波が弱い。	ほかの放送局を選局してみてください (➡14ページ)。
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください (➡14ページ)。

こんなメッセージが表示されたら

MDのエラー表示

MDを正常に再生できないときは、ディスプレイに以下のエラーメッセージが表示されます。

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「No Data」	ディスク名が入力されていないMDを再生中に、ディスク名表示に切り換えた。	ディスク名以外の表示に切り換えてください (➡50ページ)。
	曲名が入力されていない曲を再生中に、曲名表示に切り換えた。	曲名以外の表示に切り換えてください (➡50ページ)。
「TEMP」	本機の内部温度に異常がある。	本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。
「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」	MDが汚れている。 MDにキズやひびがある。	ほかのMDと交換してください。
「ERROR-20」 「ERROR-21」	振動などが原因で曲の情報を読み取れなかった。 MDに異常 (損傷している、TOCが入っていないなど) がある。	MDを取り出し、もう一度入れ直してください。それでも同じメッセージが表示される場合は、ほかのMDと交換してください。
「ERROR-22」 「ERROR-24」	MDに異常 (損傷している、TOCが入っていないなど) がある。	ほかのMDと交換してください。
「ERROR-23」	音楽以外の情報が記録されたMDを使用した。	音楽が録音されたMDを使用してください。
「ERROR-01」 「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」 「ERROR-A0」 「ERROR-A1」	本機の電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、MDの再生を一度やめて、もう一度再生してください。
「ERROR」	MDが何らかの原因で再生しない。	
「BLANK MD」	何も録音されていないMDを挿入した。	ほかのMDと交換してください。

付録



TOCとは

TOCはTable Of Contents (テーブル オブ コンテンツ) の略で、CDやMDなどに収録されている曲数/演奏時間/タイトルなどの情報のことです。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

おもな仕様

アンプ・オーディオ部

最大出力：	50 W × 4
定格出力：	22 W × 4 (50 Hz ~ 15 000 Hz、5 % THD)
負荷インピーダンス：	4 Ω (4 Ω ~ 8 Ω使用可能)
プリアウト最大出力レベル：	2.2 V
出カインピーダンス：	1 k Ω
イコライザー (3 バンドパラメトリックイコライザー)：	(LOW) 周波数: 40 Hz、80 Hz、100 Hz、160 Hz Qファクター: 0.35、0.59、0.95、1.15 (+6 dB ブースト時) 調整幅: ± 12 dB (MID) 周波数: 200 Hz、500 Hz、1 kHz、2 kHz Qファクター: 0.35、0.59、0.95、1.15 (+6 dB ブースト時) 調整幅: ± 12 dB (HIGH) 周波数: 3.15 kHz、8 kHz、10 kHz、12.5 kHz Qファクター: 0.35、0.59、0.95、1.15 (+6 dB ブースト時) 調整幅: ± 12 dB
ラウドネスコンター：	(LOW) : 3.5 dB (100 Hz) 3 dB (10 kHz) (MID) : 10 dB (100 Hz) 6.5 dB (10 kHz) (HIGH) : 11 dB (100 Hz) 11 dB (10 kHz) (ボリューム : - 30 dB)
トーンコントロール：	(バス) 周波数: 40 Hz、63 Hz、100 Hz、160 Hz ゲイン: ± 12 dB (トレブル) 周波数: 2.5 kHz、4 kHz、6.3 kHz、10 kHz ゲイン: ± 12 dB
ハイパスフィルター：	周波数: 50 Hz、80 Hz、125 Hz スロープ: - 12 dB/oct.
サブウーファー出力：	周波数: 50 Hz、80 Hz、125 Hz スロープ: - 18 dB/oct. ゲイン: ± 12 dB 位相: NORMAL、REVERSE

付録

MDプレーヤー部

形式：	ミニディスクデジタルオーディオシステム
使用ディスク：	ミニディスク
信号フォーマット	
サンプリング周波数：	44.1 kHz
量子化ビット数：	16 ビット直線
周波数特性：	20 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
S/N：	94 dB (1 kHz) (IHF-A ネットワーク)
ダイナミックレンジ：	92 dB (1 kHz)
チャンネル数：	2 (ステレオ)

FMチューナー部

受信周波数帯域：	76.1 MHz ~ 89.9 MHz
実用感度：	8 dBf (0.7 μ V/75 Ω 、モノラル、 S/N : 30 dB)
S/N：	75 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率：	0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ) 0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性：	30 Hz ~ 15 000 Hz (± 3 dB)
ステレオセパレーション：	45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

AMチューナー部

受信周波数帯域：	522 kHz ~ 1 629 kHz (9 kHz)
実用感度：	18 μ V (S/N : 20 dB)
S/N：	65 dB (IHF-A ネットワーク)

共通部

使用電源：	DC 14.4 V (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式：	マイナスアース方式
最大消費電流：	10 A
外形寸法	
(取付寸法)：	178 (W) × 50 (H) × 162 (D) mm
(ノーズ寸法)：	170 (W) × 46 (H) × 14 (D) mm
質量：	1.1 kg (コードユニット含まず)

付属品

コードユニット：	1
取付ネジ類：	1 式
取扱説明書：	1
取付説明書：	1
安全上のご注意：	1
保証書：	1
ご相談窓口・修理窓口のご案内：	1



お知らせ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

ドルビーラボラトリーズの米国及び外国
特許に基づく許諾製品。

MDの正しい使いかた

使用できるMDについて

- 次のマークが付いているMD（ミニディスク）をご使用ください。



- 音楽用MD以外は使用しないでください。故障の原因になります。

取り扱い上のご注意

- MDのシャッターを手で開けないでください。無理に開けると壊れることがあります。

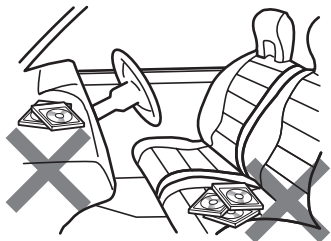
カートリッジ



付録

保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、MDを保管しないでください。



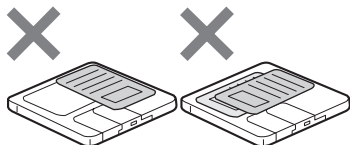
寒いときの結露について

- 寒いときヒーターを入れた直後にMDの再生を始めると、本機内部のレンズやMDに露が付いて、正常に再生されないことがあります。

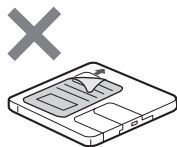
このようなときは、1時間ほど放置して自然に露が取れるまでお待ちください。MDのカートリッジに付いた露は柔らかい布でふいてください。

ラベルについて

- MDに付属のラベルは、必ず指定の位置に張ってください。指定の位置以外に張ったり、2枚重ねて張ったりすると、MDが取り出せなくなることがあります。



- ラベルがめくれたり、浮いたりしたMDは使用しないでください。ラベルが本機の内部に引っかかり、MDが取り出せなくなります。このようなMDは新しいラベルに張り換えてからお使いください。



お手入れについて

- MDのカートリッジ表面が汚れたときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。
- MDにベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



- MD用クリーニングディスクを使用するときは、クリーニングディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。
クリーニングディスクによっては、故障の原因になる場合があります。

索引

あ

アッテネーター	49
アンテナコントロール	11
イコライザーカーブ	
選ぶ	36
簡単な補正を加える	36
補正する	40
細かく調節する	41
エクスターナル	10
オートアンテナ	11

か

外部アンプ	54
外部機器	53
グループ	6
交通情報	48

さ

再生範囲	
MD	18
マルチCD	27
サブウーファー	
本機で音のつながりを	
調節する	43
外部アンプなどで調節する	
場合の設定をする	45
RCA端子からの出力方法を	
選ぶ	54
スキャン再生	
MD	19
マルチCD	28
スクロール	51
ソース	10

た

タイトル	33
タイトルリスト	34
ダイレクトファンクション	49
テレビ	11
時計	
表示する	48
合わせる	52
トレブル	42

な

ノンフェーディング	45
-----------	----

は

ハーモニックスパイス	36
ハイパスフィルター	46
バス	42
バランス	39
バンド	14
表示	50
フェーダー	39
プリセットメモリー	23
フルレンジ	54
ポーズ	
MD	20
マルチCD	29

ま

ミュート	50
------	----

ら

ラウドネス	43
ランダム再生	
MD	19
マルチCD	27
リモコン	8
ローパスフィルター	45

アルファベット

AUX	53
BSM	22
CD TEXT	51
COMP	30
DBE	30
FMモジュレーター	24
H.SPC	36
HPF	46
ITS	30 ~ 32
MDLP	6
MDグループ	6
Qファクター	40
RCA端子	54
SFE	37
SLA	46
ST-Name	24
Title In	33
TOC	12

数字

1枚型CD	11
50枚型マルチCDプレーヤー	6

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い(取り付け・組み合わせなど)については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口 ● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求窓口

カスタマーサポートセンター (全国共通フリーフォン)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00 (弊社休業日は除く)

● カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話 ☎ **0070-800-8181-11** 【一般電話】 **03-5496-8016**
ファックス **03-3490-5718**
インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口 ● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付時間 月曜～金曜 9:30～19:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話 ☎ **0120-5-81028** 【一般電話】 **03-5496-2023**
ファックス ☎ **0120-5-81029**
インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair.html>
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ／ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション (沖縄県のみ)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

電話 【一般電話】 **098-879-1910**
ファックス **098-879-1352**

部品のご購入についてのご相談窓口 ● 部品(付属品・リモコン・取扱説明書など)のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話 ☎ **0120-5-81095** 【一般電話】 **0538-43-1161**
ファックス ☎ **0120-5-81096**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

© パイオニア株式会社 2006

< KMIX > < 06K00000 > < YRA5042-B/U >